

◎	主として取組む	短期 3年
○	協力して取組む	中期 5年
△	一部を取組む	長期 10年

保存と活用に関する課題	保存・活用に関する基本方針	番号	保存と活用に関する措置											KPI(成果目標値)			
			事業名	事業内容	取組み主体					事業計画期間			財源	指標	目標値		
					市民	専門家	団体	文化財部局	行政(関連部局)	短期	中期	長期					
課題1 歴史文化遺産を「知る」取り組みの課題																	
<ul style="list-style-type: none"> 継続的な埋蔵文化財発掘調査が必要である 市史編さんに関わる調査の継続と調査成果公表並びに市史の早期刊行が求められる 生活文化・生業に関わる調査が未実施の地域もみられ、掘り起こしが必要とされる 近代和風住宅や近代化遺産などの近代遺産の類型別悉皆調査の継続が必要とされる 生業と生活が一体となった特徴的な漁村集落や街道集落の文化的景観調査が必要とされる 寺社などに保管されている史料の散逸が懸念される 	基本方針1 歴史文化遺産を持続的に「知る」取り組みを進める	1	遺跡・武家屋敷跡の発掘調査	遺跡や武家屋敷跡の発掘調査、学術調査を継続して進め、指定等文化財及び城下町などの価値の解明を進める		○		◎			■	■	■	国費、県費、市費	調査件数	年1件	
		2	市史の編さんに関する調査	市史の編さんに関わる調査を継続し、その成果を紀要等で定期的に発信する		○		◎				■	■	■	市費	市史編さん冊子の刊行	年1冊
		3	生活文化に関する調査	無形民俗文化財などの身近な生活文化に関わる歴史文化遺産の掘り起こしなどについて、テーマを設定して計画的に調査を進める	◎	○	◎	◎				■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	年1件
		4	食文化の把握調査・魅力発信	明石の食文化の魅力について把握すると共に、多様な媒体で情報発信を行う		○	○	◎	◎			■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	期間中1件
		5	生業に関する調査	明石の特性となっている生業調査(造船所等を含む)を市民や団体が中心になって計画的に進め、成果を公表する	◎	○	◎		○			■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	年1件
		6	建造物に関する調査	近代の歴史文化の魅力を構成している建造物調査を市民・団体等が中心に進め、成果を公表する	◎	◎	◎	○	○			■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	年1件
		7	近代化遺産調査	近代化遺産を対象として市民や団体が中心になって計画的に取り組みを進め、成果を公表する	◎	◎	◎	○				■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	年1件
		8	文化的景観調査	西国街道沿いや林崎漁港周辺などを対象に、市民や団体が中心になって文化的景観調査を進め、成果を公表する	◎	◎	◎	○	○			■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	期間中1件
		9	史料調査	蔵などで保管されている史料が散逸しないよう、計画的に調査を実施して史料整理を進め、成果を公表する	○	○	○	◎				■	■	■	国費、県費、市費	調査実施数	期間中1件
課題2 人材育成に関する課題																	
<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習機会の継続的充実が求められる 学校教育における歴史文化に関わる取り組み、学校教育現場で学習を支援する地域人材の確保が必要とされる 出前授業の継続など学校教育における歴史文化学習推進が急務である 歴史文化遺産に関する教材開発や指導者等の研修会開催が必要である 	基本方針2 学校教育・生涯教育の場で人づくりを進める	10	学習発表会の開催等の生涯学習機会の充実	市民が歴史文化に触れることができるよう、市史等最新の情報を提供し、幅広く生涯学習機会を充実させると共に、市史編さん等による最新の情報を市民に提供する。また、図書館等との連携による市内高校の歴史関係のクラブ活動を含め、学習発表会等を開催する	○	○				◎		■	■	■	市費	生涯学習の場の設定	継続
		11	歴史文化コーディネーターの育成	小・中学校における体験授業の企画・運営・指導を担うコーディネーターを地域人材として育成する	○	○		◎				■	■	■	市費	育成コーディネーター数	期間中6人
		12	学校への出前授業の拡充	地域人材による出前授業の拡充により子どもたちに地域の歴史文化を学ぶ機会を提供する	○		○	◎				■	■	■	市費	出前事業実施数	年間5校
		13	副読本・歴史文化遺産マップの開発	小・中学校等におけるふるさと学習の副読本や歴史文化遺産マップを開発を推進する		○		◎				■	■	■	市費	副読本・マップ開発	期間中作成
		14	教材開発者・指導者の研修会の開催	教材開発や指導に関わる市民・教員等を対象とした研修会開催により継続学習機会を提供する	○	○			◎			■	■	■	市費	研修会開催数	年1回
		15	新設文化財収蔵庫の活用	新設する文化財収蔵庫では、文化財保存の実習場としても活用し、出土遺物の洗浄や復元作業の補助を担うボランティア人材の育成の場とする	◎	◎		◎				■	■	■	市費	研修会開催数	年1回
課題3 保存に関する課題																	
<ul style="list-style-type: none"> 文化財指定の拡充ほか歴史文化遺産の保全方策拡充及び周辺環境整備が求められる 明石城跡史跡指定区域外の発掘調査等史跡の価値の把握が困難であると共に解説板等の設置が必要である 旧波門崎燈籠堂の損傷が著しい 船山城本丸跡の自由な見学が困難である 近代洋館建築の老朽化、八木地域の明石瓦生産を示す煙突、路傍の五輪塔や石塔、「重建」などの保存のための取り組みが必要とされる 無住の神社などの保存・管理を地域住民により継続することが必要とされる 林崎地域の建築物の調査、保存の措置が必要とされる 布団太鼓の公開の場が確保されていない 歴史的建造物の修理・修復の財源確保が必要とされる 文化財データベースの構築が必要とされる 	基本方針3 歴史文化遺産を確実に次世代に継承する	16	文化財への指定等	文化財の指定拡充及び周辺地域の指定拡大、未指定文化財の指定・登録などの保全方策を拡充する		○		◎				■	■	■	市費	指定等件数	年2件
		17	指定等文化財の環境整備	指定等文化財の見学ルート確保や解説板の設置を含め文化財及び周辺環境整備を進める		○		◎	○			■	■	■	市費	環境整備件数	年1件
		18	史跡明石城跡保存活用整備	史跡明石城跡の保存の拡充、価値の理解を助ける解説板の設置等文化財整備事業を兵庫県と協働して進める					◎			■	■	■	国費、県費	保存活用整備事業	期間中3件
		19	旧波門崎燈籠堂(石積)の環境整備	旧波門崎燈籠堂(石積)の市指定と併せて、燈籠堂の保全措置及び環境整備等を県港湾部局と協働して計画的に進める					◎	◎		■	■	■	国費、県費、市費	環境整備	期間中一部完了
		20	船山城跡の環境整備	船山城本丸跡と推定されている高台の保存や見学ルート等の環境整備を進める					◎				■	■	国費、県費、市費		
		21	景観上の重要建造物等の保存	歴史的な景観を残す城下町の商家、近代洋館建築の安藤家、瓦生産を示す煙突、路傍に残る五輪塔等を法的な枠組を活用して保存すると共に、「重建」等の重要建造物等の修理・修復を進める				○	◎	◎			■	■	市費、団体費		
		22	漁港町並み関連建造物の保存	漁港の町並みの面影を残す建造物について各種法的な枠組を活用して保存の措置を進める		○	○	◎	◎				■	■	市費		
		23	歴史文化遺産管理活動への助成	無住の神社や所有者不明の歴史文化遺産管理を市民協働で進めるため、管理活動への助成制度などの仕組みづくりを検討する	○	○	○	◎	◎				■	■	国費、県費、市費		
		24	布団太鼓の公開の場の設定	布団太鼓の調査を継続すると共に公民館等で一堂に鑑賞できる場の設定、「(仮称)布団太鼓サミット」の開催による内外地域の交流など、市民にその魅力を発信し、さらには、未公開の布団太鼓の公開を促進する	○	○	○	◎					■	■	市費		
		25	財源確保・支援	クラウドファンディング等の仕組みを利用して、財源を確保することにより、建造物等の修理・修復の支援に取り組む	○	○	○	◎				■	■	■	国費、県費、市費、寄付金	修理等支援数	年2件
		26	歴史文化遺産データベースの作成・更新・共有	文化財データベースの作成、定期的更新と共に庁内関係部局などと共有し、市民の歴史文化への認識の醸成、観光等の促進に活用する					◎			■	■	■	市費	データベース更新	年1回

◎	主として取組む	短期 3年
○	協力して取組む	中期 5年
△	一部を取組む	長期 10年

保存と活用に関する課題	保存・活用に 関する 基本方針	番号	保存と活用に関する措置											KPI(成果目標値)		
			事業名	事業内容	取組み主体					事業計画期間			財源	指標	目標値	
					市民	専門家	団体	文化財 部局	行政 (関連 部局)	短期	中期	長期				
課題4 活用に関する課題																
①観光面・情報発信面の課題																
<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化遺産の魅力活用や発信が限定的である ・観光拠点である明石城跡のガイダンス機能の拡充が求められている ・点在する歴史文化遺産の魅力活用のための方策の検討が必要である ・明石城跡が立地する丘陵部と海岸部を結ぶ「南北交流軸」を内外に発信することが必要である ・東西に長い本市各地域周遊観光が限定的である ・歴史文化遺産周辺駐車場等整備が進んでいない ・先端技術活用の情報発信が進んでいない 																
②歴史文化遺産のまちづくりへの活用の課題																
<ul style="list-style-type: none"> ・明石市立文化博物館の歴史文化遺産に関する企画の拡充が必要とされる ・歴史文化遺産の解説板等の拡充、解説への先端技術の活用が必要とされている ・市民が歴史文化遺産に触れる機会拡充が必要とされる ・地域産業に関わる歴史的建造物等の活用が必要である ・伝統的建造物活用が十分進んでいない ・障がいを持った人も歴史文化遺産に触れることができる手法の検討が必要である 																
課題5 体制づくりに関する課題																
<ul style="list-style-type: none"> ・連携して取り組みを展開する体制づくりが進んでいない ・功績のある人材を顕彰する制度が確立していない ・歴史的建造物の保存・活用に関する行政相談窓口の設置が必要である 																
防災・防犯に関する課題																
<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画に文化財の防災に関する条項が記載されていない ・歴史文化遺産の防犯・防災を確実に進めるためのマニュアル等の作成が必要とされる ・文化財パトロールは年1回に限定される ・地域における歴史文化遺産の防犯の推進が必要とされる 																
			基本方針4 歴史文化を活かした愛着のもてるまちづくりを推進する													
			基本方針4-1 歴史文化観光に関わる多様な取り組みを重点的に展開する													
			27	国際交流・地域間・広域交流	姉妹都市等との国際交流、地域間観光交流、淡路島等との広域交流を推進し、魅力を発信する			◎	◎	◎	■	■	■	国費、県費、市費	連携事業数	年1件
			28	歴史文化観光のコンテンツ拡充	市や文化博物館のホームページ等で歴史文化観光情報を継続して発信すると共に、「歴史のまち明石」としての魅力を十分に伝えるよう、ホームページのコンテンツの充実や明石ケーブルテレビ番組などのコンテンツの充実を進める			◎	○	○	■	■	■	国費、県費、市費	コンテンツの拡充	期間中2回
			29	明石公園のガイダンス機能の拡充	多くの観光客が来訪する明石公園内に本市の歴史文化遺産のガイダンス機能を拡充すると共に、明石城跡に関する展示の場の確保、解説板整備などの魅力発信方策を拡充する			○	○	○			■	国費、県費、市費		
			30	南北・東西の歴史文化遺産のネットワーク化	歴史文化遺産の南北観光交流軸、東西周遊ルートの設定など、歴史文化遺産のネットワーク化を進めるため歴史文化遺産間の関連性を明示する冊子作成、明石駅前における市内の歴史遺産案内板でのネットワーク表記などを進める			○	○	◎			■	国費、県費、市費		
			31	歴史文化周遊観光の推進	たこバス等の公共交通利用を含め東西周遊ルートの設定などを進めると共に、JR明石駅周辺に大型バス乗降場所設置を検討する	○	○	◎	○	◎			■	国費、県費、市費		
			32	自転車利用の推進	歴史文化遺産周辺の駐車場整備や幅員の狭い道路での自転車利用の誘導などのハード、ソフトの環境整備を進める			○	○	◎			■	国費、県費、市費		
			33	先端技術の活用による情報発信	ドローンを用いた城下町の空撮などのデジタルコンテンツの拡充、AR、VR、ICTの活用などによる情報発信を進める			○	○	◎			■	国費、市費		
			基本方針4-2 歴史文化遺産が核となるまちづくりを市民等と協働する													
			34	文化博物館の拠点機能の拡充	明石城関連の資料など、博物館の常設展示については、市史編さんなどで収集した資料や解明されたことの一部を文化博物館のコーナーで紹介するほか、布団太鼓など歴史文化の総合的発信などの機能を充実させる。また、来訪者ならびに子どもたちがその価値を学ぶことができる講座の開催など博物館の拠点機能を拡充する。				◎		■	■	■	国費、県費、市費	展示の拡充	期間中拡充
			35	歴史文化遺産マップ・解説板作成	城の外堀、道標、駅家などの存在を明示するためマップ作成や解説板設置を実施する			◎	◎	◎	■	■	■	国費、県費、市費	解説板の設置	年2箇所
			36	歴史文化シンポジウム等の連続開催	歴史文化に関わるシンポジウム等について、市内の歴史関係グループの発表も含め、継続的に実施し、市民が明石の歴史文化を学ぶ機会を提供すると共にわがまちへの誇りと愛着を醸成する取り組みを進める			◎	◎	◎	■	■	■	国費、県費、市費	シンポジウムなどの開催数	年1回
			37	歴史まち歩きの定期的開催	地域のまち歩きを定期的に開催し、歴史文化を核としたまちづくりのファンを増やしていく			◎	◎		■	■	■	国費、県費、市費	歴史まち歩きの開催	年1回
			38	地域の生活・生業に関わる歴史文化遺産の活用	長屋門付農家、瓦工場の煙突、登り窯等地域の生活や生業に関わるの活用することで歴史文化遺産を核としたまちづくりを進める			◎	◎	◎			■	国費、県費、市費		
			39	建造物等の公開	登録文化財などが地域のまちづくりの核となるよう公開に向けた取り組みを進める			○	◎	◎			■	国費、県費、市費		
			40	多様な人が鑑賞できる文化財展示手法等の検討	手話通訳付きのオンライン配信など障がいを持った人でも歴史文化遺産に触れることができるような情報発信や展示手法等を検討する			○	◎	◎			■	国費、県費、市費		
			基本方針5 みんなで歴史文化のまちづくりを進める													
			41	部局間連携による地域づくり	庁内部局間連携による都市景観形成重要建造物等活用など歴史文化遺産を核としたまちづくりを進める				◎	◎	■	■	■	国費、県費、市費	連携事業数	年1件
			42	歴史文化遺産保存活用体制の構築	明石市文化財保存活地域計画協議会により、歴史文化遺産の保存・活用を進める	◎	◎	◎	◎	◎	■	■	■	市費	協議会の開催	年1回以上
			43	顕彰制度の確立	歴史文化の保存活用に貢献した市民や団体を顕彰する制度を確立し、市民活動の幅を広げる				◎		■	■	■	市費	制度の確立	期間中確立
			44	市民相談窓口の設置	歴史的建造物等の保存や活用に取り組むことができるよう市民向けの各種相談を受ける窓口を設置する			◎	◎	◎			■	国費、県費、市費		
			45	近隣自治体との連携	海の道・陸の道でつながる近隣自治体との連携体制を構築し、近隣自治体との協働によるイベントや海からの周遊観光ツアー等の実施を進める			◎	◎	◎			■	国費、県費、市費		
			歴史文化遺産を災害などから守る仕組みづくりを進める													
			46	地域防災計画への歴史文化遺産防災条項の追記	明石市地域防災計画に災害時の歴史文化遺産に関する防災条項を追記し、文化財防災への対応を図る					◎	■	■	■	市費	地域防災計画への条項追記	期間内完了
			47	防火訓練の実施	これまで進めてきた文化財防火デーの取り組みを継続するだけでなく、地域単位で訓練を実施する				◎	◎	■	■	■	市費	訓練の実施	年1地区
			48	歴史文化遺産防災・防犯対応マニュアル作成の検討	市民ならびに文化財所有者向けの防災・防犯対応マニュアルの作成を検討する				◎	◎	■	■	■	県費、市費	マニュアル作成	期間内完了
			49	文化財パトロールの拡充	文化財防災デーの取り組みを継続すると共に、地域単位で市民による文化財パトロールを進める				◎	◎	■	■	■	市費	地域単位のパトロール数	年1地区
			50	防災設備の設置への支援	文化財所有者等が設置する防災設備への支援を行う			○	◎		■	■	■	県費、市費、団体費	防災設備支援	年2件

◎ 主として取組む 短期 3年
 ○ 協力して取組む 中期 5年
 △ 一部を取組む 長期 10年

保存と活用に関する課題	保存・活用に関する基本方針	番号	保存と活用に関する措置																
			事業名	事業内容	取組み主体					事業計画期間			財源	KPI(成果目標値)					
					市民	専門家	団体	文化財部局	行政(関連部局)	短期	中期	長期		指標	目標値				
課題1 歴史文化遺産を「知る」取り組みに関する課題			全市政的取り組みと共通																
課題2 人材育成に関する課題			方針2 学校教育・生涯教育の場で歴史文化を担う人づくりを進める																
<ul style="list-style-type: none"> ・都市化による開発の進行などによりまちを歩いていても歴史の蓄積を感じることが難しい場所もあるため、子どもをはじめ市民がわがまちの歴史文化を身近に知ることにより、歴史文化遺産を継承する人づくりを進めるための方策の検討が必要とされる。 	歴史的に愛着をもつまちづくりの推進を促進する	重1	重点区域に関する副読本の作成	市史編さん事業の進捗と併せて重点区域に特化した歴史文化を解説する副読本を作成し、学校教育における歴史文化遺産を担う次世代の人づくりを進める	◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	国費・市費	副読本の作成	期間中作成			
		重2	文化博物館における歴史文化に関する講座の開催	文化博物館の企画展示と併せ、市史編さん成果や重点区域の歴史文化に関する講座を継続的に開催し、市民が歴史文化の価値や魅力を知る機会を充実させ、歴史文化遺産の担い手育成につなげる	○		◎	◎	■	■	■					国費・県費・市費	講座の開催	年1回	
		重3	ボランティアガイド等と共に巡るまちの歴史	市民が重点区域の歴史の蓄積を感じることができるよう、ボランティアガイドや専門家と共に巡る街歩きを継続的に開催する		◎	◎	○									県費・市費	街歩きの開催	年1回
課題3 保存に関する課題			方針3 歴史文化遺産を確実に次世代に継承する																
<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵谷街道筋に残る神社や町屋の保存・活用を一層展開すると共に、重点地区の民俗文化財である布団太鼓や大蔵谷の獅子舞などの保存・公開の措置を進める必要がある。 ・明石市立文化博物館から明石城東ノ丸跡に至る箱堀跡、薬研堀跡などを含む東側区域の樹林整備などの環境整備が求められる。 ・県史跡指定の太寺廃寺塔跡は本市の古代の歴史文化を現す歴史文化遺産であり、その価値を広く発信するための方策の検討が必要とされる。 ・鍛冶屋町周辺は、明石城下の商家として数少ない建築物が残されているが、放置することによって毀損が憂慮されるため、適切な保存の措置が必要である。 	歴史的に愛着をもつまちづくりの推進を促進する	重4	大蔵谷街道筋建築物・民俗文化財の保存・公開	大蔵谷街道筋に残る伝統的な建築物や布団太鼓・獅子頭の保存・公開を進め、市民・行政と所有者との情報交換の場を構築する	○			◎	◎						国費・県費・市費	公開件数	期間中2件		
		重5	明石城東ノ丸・薬研堀周辺の環境整備	文化博物館から明石城に至る箱堀跡など周辺の樹林整備や解説板の設置を進め、文化博物館と明石城とのアクセスを向上させる				○	◎							国費・県費			
		重6	VRを用いた太寺廃寺塔の復元	高家寺境内地に位置する太寺廃寺塔跡の価値を発信するため、VRなどを用いた塔の復元を検討する	○					◎							国費・県費・市費		
		重7	城下に残る建造物の保存	鍛冶屋町など旧城下町に残る商家などの建造物について、詳細調査を実施した上で、指定・登録等の保存の措置を進める				○	◎	◎							国費・県費・市費		
課題4 活用に関する課題			方針4 歴史文化を活かした愛着のもてるまちづくりを推進する																
<ul style="list-style-type: none"> ・「南北交流軸」を内外に発信していく仕掛けづくりが必要である。 ・海に面した本市の歴史文化遺産と周辺自治体の歴史文化遺産を結ぶ海域のネットワークづくりが必要である。 ・民間企業や団体などによる歴史文化遺産を活用した新たな事業展開等への支援が必要とされる ・中崎公会堂の魅力を一層活用した取り組みが必要とされる。 ・天文科学館を中心とした科学技術に関する情報発信を継続・展開することが必要とされる。 ・武家屋敷の遺構を残す織田家には貴重な史料が保管されているが、史料調査の上、建物とともに展示・公開等の活用が求められる。 	歴史的に愛着をもつまちづくりの推進を促進する	重8	まちの歴史を知る銘板・サイン等の設置	まちの歴史を知る統一したデザインの銘板やサイン等を設置し、子どもたちをはじめ市民が歴史文化遺産や空襲被害を理解するための仕掛けづくりを進める				◎	◎						国費・市費	設置数	年3件		
		重9	海からの史跡めぐり周流ルートづくりの検討	周辺自治体と連携して、海から波門崎燈籠堂や台場跡などをめぐる周遊ルートづくりを検討し、新たな視点で歴史文化を活かしたまちづくりを推進する				○	○	◎						国費・県費・市費			
		重10	明石歴史文化クリエイティブ事業の支援	明石型生船資料の調査・研究など歴史文化遺産に関連する民間団体の活動や事業を「明石歴史文化クリエイティブ事業」と名付け、活動支援の枠組を構築する				○	◎	◎							国費・県費・市費		
		重11	中崎公会堂の活用の推進	近代明石の文化を象徴する中崎公会堂の修理・修復、保存・活用方策を検討の上、一層の活用を推進する	○	○	◎	◎	◎								国費・県費・市費		
		重12	織田家史料の展示・公開	織田家に残る貴重な歴史史料を把握・整理した上で、広く市民や来訪者に展示・公開する施設を整備する						◎							国費・市費		
課題5 体制づくりの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政、文化財所有者、校区まちづくり組織、専門家団体などと連携をより一層進めていくことが必要とされる。 	方針5 みんなで歴史文化のまちづくりを進める																	
		重14	明石市文化財保存活用地域計画協議会重点区域部会の組織化	協議会に重点区域部会を設け、市民、文化財所有者、団体、専門家、行政が協働して歴史文化遺産の保存・活用のための体制を構築する	◎	◎	◎	◎	◎	◎						市費	部会の開催	年1回	